ISSN 1345-3580

Glocal Tenri

月刊 グローカル天理 Monthly Bulletin Vol.16 No.8 August 2015

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University

8

CONTENTS

- 巻頭言
  カリフォルニアの干ばつ
  ／深谷忠一 1
- 天理教教理史断章（95）
  近愛文書⑯
  ／安井幹夫 2
- 『教祖伝』探究（14）
  おたすけの道すじ
  ／深谷忠一 3
- 「おふでさき」天理言語教学試論～「こと」的世界観への未来像～（16）
  第２章 本居宣長『古事記伝』④
  ／井上昭夫 4
- 「元初まりの話」に登場する動物たち（５）
  「うを」について⑤
  ／佐藤孝則 5
- 「おさしづ」語句の探求（８）
  教祖現身お隠しまでの「おさしづ」と「道」
  ／澤井治郎 6
- 天理参考館から（１）
  天理参考館という名前
  ／幡鎌真理 7
- 新宗教のブラジル伝道（28）
  日本の新宗教の組織的展開 ⑫
  ／山田政信 8
- コンゴ社会から見るアフリカ・ヨーロッパ関係試論（３）
  黒と白、二つの王国の出会い
  ／森　洋明 9
- 地域福祉を拓く　―新たな寄付文化の創造―（８）
  「天理ぴ～すぺ～すプロジェクト」の取り組み ①
  ／渡辺一城 10
- 遺跡からのメッセージ（３）
  遺跡がつなぐ過去と現在 ③
  ／桑原久男 11
- ヴァチカン便り（15）
  エキュメニズムへの進展の一歩となるか
  ／山口英雄 12
- 図書紹介（91）
  『家事労働ハラスメント　―生きづらさの根にあるもの』
  ／金子珠理 13
- English Summary 14
- おやさと研究所ニュース 15

  新連載執筆のねらいと執筆者紹介／第 57 回印度学宗教学会学術大会で発表（澤井治郎）／出張報告：デンマーク訪問（八木三郎）／「台湾の伝道宗教」フォーラムで発表（金子昭）／「出前教学講座」申し込み受付／平成 27 年度公開教学講座のご案内／ホームページのご案内／研究所員が発行した本の紹介

巻頭言

カリフォルニアの干ばつ

おやさと研究所長　深谷忠一　*Chuichi Fukaya*

米国西部のカリフォルニア州では、2012 年から少雨の年が続き、500 年に 1 度の記録的な干ばつに見舞われています。水源の 1/3 を賄うシエラネバダ山脈の積雪が、今年は例年の 1/3 の 0.5m。もう一つの主要な水源、コロラド川のフバーダムのミード湖の貯水量も激減して、干上がる危険も出てきています。

そこで、同州のブラウン知事は、今年 6 月 1 日に、節水を義務化する行政命令（2016 年 2 月まで）を発令。各水道供給組織に対して、2014 年の水使用実績に応じて、8％～36％（州平均で 25％）の節水義務を課し、違反者からは 1 日 1 万ドルの罰金を徴すると宣告しました。

今回の節水令は、単なる呼びかけにとどまらず、州内の 460 万㎡の芝生をめくって乾燥に強い植物や木片チップなどに取り換えたり、市民が洗濯機や食器洗機などを節水タイプに買い替える補助金を出す仕組みなども導入。レストランでは客が求めなければ水は出さない。ホースで車を洗うのも、リサイクルしない噴水の水使用も規制の対象。広い庭の邸宅が立ち並ぶビバリーヒルズ市などには、最大 36％の節水を義務づけて、プールや池の水の入れ替えを禁止。“枯れた芝生と汚れた車は、地域貢献の証”等の広報がなされるなど、種々の施策が実行されています。

一方、今回の節水令では、州の水使用量の 80％を占める農業が規制の対象外で、都市部の住民の抗議の対象になっていますが、農家はこの 4 年間の水不足ですでに生産量を大幅に減らしており、昨年だけで 27 億ドルの被害。今年は 32 億ドルの被害になると予想されているのです。

この歴史的な干ばつをいかに乗り切るか？　加州下院（共和党）議員のシャノン・グローブ女史は、「カリフォルニアに雨を降らせる唯一の方法は、中絶廃止法をつくることである」と州都の会合で演説。また、ブラウン知事は、「この干ばつを乗り切る一番効果的な方法は、我々が野菜バーガーを食べることだ」と、LA タイムスのインタビューに答えています。

二人の政治家の主張は、表面的には両極端なものに聞こえますが、グローブ女史の「この干ばつはこの州が中絶を認めていることへの神罰である。テキサス州も長期にわたる干ばつに悩んでいたが、ペリー知事が“胎児の痛み“法案に署名したその夜に雨が降った。」との主張、また、ブラウン氏の「1 ポンドの牛肉を生産するのに 1,800 ガロンの水が必要だが、1 ポンドのポテトの生産には 34 ガロンの水を使うだけだ」との説明を聞けば、それぞれに頷けるところもあるのではないかと思います。

いずれにしろ、この異常気象・干ばつがこのまま続けば、日本の 1.1 倍の面積に 3,500 万人が住み、全米一の経済規模を持つカリフォルニア州が大変なことになります。そして、カリフォルニア州が転ければ、アメリカも日本も大変なことになることは間違いありません。

太平洋の反対側の日本に住む私たちも、同州の干ばつを他国の一地方の災害だと無関心でいるのではなく、地球家族への大問題だと受けとめて、自らの日々の生活の有り様を考える。異常気象の原因だといわれる地球温暖化の防止策にも積極的に関与していく。そして何よりも、親神への日々の祈りの中に、彼の地への雨の恵みのお願いも加えていくことが大事だと思う次第です。